

令和3年度 小平市立小平市立小平第十小学校 学校評価報告書

学校教育目標 ○考える子 ○やさしい子 ○やりとげる子 ○たくましい子

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 笑顔いっぱい 夢いっぱい とともに伸びゆく 小平十小

【目指す児童・生徒像】 ・根拠を明確に自分の考えを表現できる児童 ・自他の生命を尊重し、自分も友達も大切にできる児童 ・失敗から学び、最後までやりとげる児童 ・自己有用感を高め、心身共に健康な児童

【目指す教師像】 どの子も伸ばす「分かる授業」「楽しい授業」をする教師 ・学習規律のある学級経営をする教師 ・常に自己研鑽に努める教師 ・服務事故を絶対に起こさない教師 ・保護者、地域に信頼される教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

「成果」教職員による児童の主体性を重んじる丁寧な指導により、一人一人の児童のよさが生かされる学習活動の充実を図ることができた。

「課題」児童一人一台配備されたタブレット端末の利用・活用の推進し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	年2回の読書旬間により活字に触れる機会を設け、言語活動の充実を図る。学習者用端末の利用・活用することで、個々のニーズに応じた学習活動を充実させる。	3	3	毎週金曜日の読書タイムにおける全学級での実施を徹底する。教員の指導スキルを向上し、学習目標を達成させる手段としての幅を広げるための研修を行う。	4	4	保護者によるアンケート調査は、高評価を得ている。学校での学習内容を反映した宿題や自主学習の取組が伺える。各学年で取り組む基礎的・基本的な学習内容は、確実に身に付けさせてほしいと考える。各教員のよさを発揮した授業を展開してほしい。	読書タイムにおける読書活動の実施状況を、管理職や主幹教諭により把握する。校内研究やOJT研修の内容に位置づけ、学習者用端末の活用促進が図られるようにする。
	宿題と自主的な家庭学習を合わせた時間(10分×学年)とし、音読、漢字、計算に取り組みせながら、自ら設定した課題を週2回以上取り組めるようにする。	3	3	自主学習と宿題をバランスよく提供する必要がある。校内体制を見直し、共通理解を図る。自主学習における課題設定の視点が広がる働きかけを教務部等で検討する。	3	4		校務改善推進委員会と研究部とが連携し、自主学習の取組内容について整理をし、全教員の共通理解の徹底を図る。
健全育成(いじめ防止)	全教職員で朝のあいさつを励行する。学校行事や学年活動、委員会等、児童が自ら考え取り組む活動を支援し、一人一人が活躍できる機会を充実させる。	3	3	児童からの自主的な挨拶ができるよう教職員からの声掛けを更に推進する。展覧会や委員会活動、係活動を充実させられるよう教員がより丁寧に関わり、児童の主体性を高める。	4	4	通学路や校内で挨拶をしてもらったり、授業に積極的に参加したりしている児童が増えたように感じる。その反面、悩みを抱えている児童もいるように捉えている。不安や心配事のある児童には、これからも適切に相談に応じてもらえるようお願いしたい。	教職員による挨拶の励行を推進する。代表委員会等による児童が自主的に挨拶を進んで行えるような取組を講じる。学校行事や委員会等の活動には、児童が主体的、自主的に取り組むことができるよう働きかける。
	縦割り班活動(なかよし班活動)を充実させるとともに「学級力向上プロジェクト」を全学級で定期的実施し、学級力を高める。いじめ防止対策基本方針について学校組織を生かして確実に取り組む。	3	3	なかよし班遊びや清掃への教員の関わりを更に丁寧に。学力向上プロジェクトの取組状況を特活部で定期的に確認する。人権意識を高める働きかけとして、人権標語の取組を発展的に取り組んでいく。	4	3		コロナ禍において活動が制限された。今後も安全を優先した活動の在り方を検討していく。その中で、異学年の交流が充実できる取組と模索していく。人権教育については、教職員の人権意識や感覚を高める研修や助言に努める。
特色ある学校づくり	学校経営方針を具現化するための熟議を行い、課題の解決を図る。	3	3	熟議を通して焦点化された十小の優先課題を解決するための協議を推進し、具体策を講じられるようにする。	3	3	コロナ禍により、学校経営協議会開催が十分ではなかった。熟議を通して少しずつ課題解決に向けて進められているが十分とは言えない。オンライン等の手段を活用した開催方法等が求められる。お便りやHPを活用した情報発信には、積極性を感じる。	熟議を通して地域とともにある学校づくりの話し合いを継続的に行っていく。コロナ禍を考慮した開催方法として、オンライン会議の開催方法を検討する。
	学校だよりを毎月発行するとともに、学級便りで情報発信するクラスを増やす。ホームページの充実を図るため、Webの更新を年間100回以上行う。	3	3	ホームページの学校日誌の更新は、12月末までに113回を数えた。Webを利用して学校の様子を伝えることを更に充実させていく。また、スクールメールを併用した情報発信で閲覧機会をタイムリーにしていく。	4	3		ホームページがリニューアルされ、PTAの情報等も掲載することができるようになった。今後は、学校の情報に限らず、PTAや地域の情報も適宜提供していくようにする。
業務改善・働き方改革	学習者用端末の利用・活用を充実させ、合理的且つ効果的な学習環境を整える。	3	3	学習者用端末の活用推進を図る研修を実施し、日常やオンラインでの授業実践に生かせるようにする。各学年に具体的な実践データを整理し、指導内容・方法の情報共有を図り、活性化を図る。	3	2	学校関係者評価委員に対して、働き方改革の取組の見え方が図られていないので評価することが困難である。学習者用端末の活用促進と業務軽減の取組が難しそうに思う。	学習者用端末の有効利用を推進するために、校務分掌にICT推進委員会を設置し、系統的な指導体制の構築を図る。総合的な学習の時間の内容に情報モラルを設け、指導の充実を図る。
	常設委員会に教務部を設置し、日常業務の課題解決を推進する委員会を通して、教職員の働きやすい環境を整える。	3	3	校務改善推進委員会による業務改善を推進してきたが検討事項はまだ多岐に渡っている。次年度の教育課程編成に合わせて、働き方を見直す取組を行っていく。	3	2		校務分掌における体制の改善を図り、業務が一部の教員に偏らなうようにする。会議等を精選し、日常の業務が円滑に進められるよう時間の確保に努めるようにする。